

1. 第12回全国和牛能力共進会種牛の部第6区総合評価群の取組

大分家畜保健衛生所
○児玉彬・(病鑑) 人見徹

【はじめに】

本年10月に開催された第12回全国和牛能力共進会(以下、第12回全共)において第6区総合評価群(以下、6区)は、種牛能力と産肉能力を総合評価する出品区で、地域の改良の中核を担う種雄牛の産子を実証展示し、各地域の改良成果を確認することを狙いとしており、共進会の花形とされている。当家畜保健衛生所(以下、家保)の管轄する県中央地域は、7年前に設立した和牛育種組合のある由布市で取組み、第12回全共の第6区種牛の部の大分県代表に選出され、第12回全共本大会で成果を挙げたのでその取組み内容を説明する。

【取組み内容】

県では、令和元年7月に第12回全共大分県推進協議会(以下、県推進協議会)を設立し、県出品牛造成基本方針に基づき、6区の交配指定種雄牛「美馬桜」を決定。家保、振興局、市、農協等からなる県推進協議会中央地区指導班(以下、地区指導班)を組織し、候補牛の生産、選抜、飼養管理指導等を組織的に推進。6区候補牛の生産には、積極的な母牛選定、性判別精液等の活用を行い、生産子牛の繁殖農家指導を地区指導班で実施。地区予選会後は積極的に農家を巡回し、出品牛の引き運動、調教指導等のサポートを行った。

【成果】

6区候補雌牛の生産にあたり、由布市繁殖農家の雌牛63頭に人工授精を実施。その結果36頭が受胎し18頭の候補雌牛が誕生した。そこから発育状況等を鑑み令和3年9月14日に実施した1年前調査会で6頭に絞り込んだ。当該6頭が本年7月14日に開催された県最終予選会に出品され、その結果、4頭が県代表牛に選抜された。第12回全共本大会での最終審査では、6区種牛の部及び肉牛区とあわせた総合順位で優等賞5席を獲得した。

【まとめ及び考察】

第12回全共6区において県代表として選抜され、第12回全共本大会では優等賞の成績を収めることができた。今回黒毛和種頭数の少ない中央地区(由布市)が第6区の代表に選抜されたのは、積極的な授精推進等により選抜圧をかけ、候補雌牛を増加させたことによるものと考えられる。また、6区は優れた種雄牛により生産された優良雌牛を積極的に保留することで、種牛能力と産肉能力をバランス良く備えた次世代の繁殖雌牛集団づくりにつながることを目的とした出品区であり、第12回全共出品にむけた取組を通じ、由布市に優良な繁殖雌牛集団をつくることができた。今後、全共で畜産大国である鹿児島県等と対等に渡り合うことで、各地区和牛育種組合での取組により県全体での候補牛選定にかかる選択圧の増加につながり、その取組を通じ、県全体に優良な繁殖雌牛集団をつくることにつなげたい。